

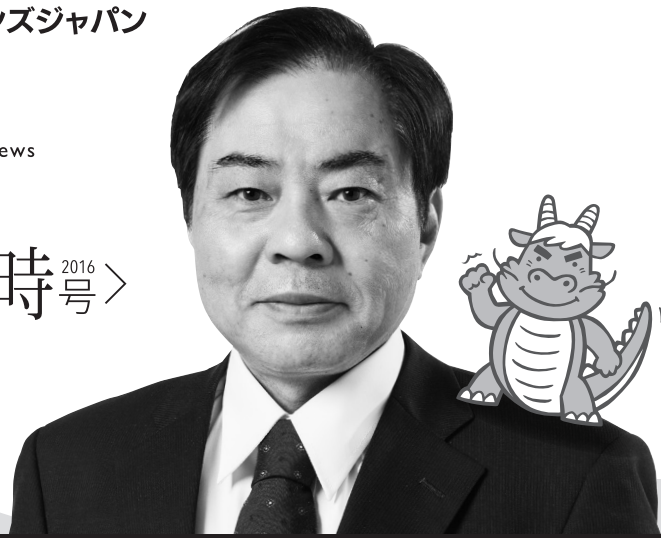
あらき ニュース

Ryusho Araki News

〈臨時²⁰¹⁶号〉

緑の党
グリーンズジャパン

発行:福岡市議会議員 荒木龍昇
〒814-0033 福岡市早良区有田5-17-7
TEL.092-862-8980/FAX.092-862-8985
メール f-lopas@hf.rim.or.jp



函館市、大間原発の差し止めを提訴へ! 福岡市も玄海原発の廃炉を求めるべき

4月に大間原発建設差し止め訴訟を提訴している函館市に行き、提訴の経緯を聞いてきました。大間原発は津軽海峡をはさんだ函館市の対岸にあり、函館市の最も近いところまで23km、市全域が原発からほぼ50km圏内に入ります。当日も市役所8階から大間原発を見ることができました。

50km圏内には道南地域の37万人、青森県内の9万人が住んでいます。福島原発のような過酷事故が起こった場合、避難路は国道5号線と国道227号線しかありません。しかし、227号線は1車線の山道で、特に冬は積雪や凍結で避難には使えず、5号線は2車線ありますが平時も渋滞があり、事故時に37万人が避難することは事実上不可能です。函館市として避難計画は作っていません。

大間原発は福島原発事故前の基準で建設許可がなされており、そもそもこのまま建設させることに問題があります。さらに、大間原発はMOX燃料(ウランとプルトニウムを混合した燃料)だけで運転される世界初の原子炉です。実証炉の実験もなく商業運転がなされることになっており、極めて危険な原子炉です。

函館市は緊急時に放射能の影響を予測するシステム「スピーディ」のデータが使えないため独自にシミュレーションを行い、被害を「見える化」して市民や周辺自治体に大間原発の危険性を訴え、周辺自治体、農・漁業協同組合、地元商工会や市民など地域ぐるみの大間原発建設反対運動を行っています。函館市議会では全会一致で大間原発建設差し止め訴訟が



議決されています。訴訟については函館市をはじめ、北海道はもとより全国から激励やカンパが寄せられて、訴訟費用のカンパは5500万円になっています。

2011年4月に市長が変わり、新市長の考えで大間原発訴訟が準備されました。函館市の原発についての考え方は、電力を消費する現世代が将来世代に使用済み燃料や老朽化施設の廃炉処理などの負の遺産を残すべきではなく、「建設中の原発や計画中の原発は

〈裏面に続く〉

凍結し、将来世代の判断に委ねるべき」というものです。これは「これ以上原発を推進しない」という立場であり、脱原発・反原発の立場の市民だけでなく、「原発を容認する」市民からも支持を得ています。

今回函館市を訪問して、やはり首長が「地方自治体の本旨である住民の暮らしといのちを守る」という立場に立っているか否かが大きいと改めて感じまし

た。原発の問題に限らず、沖縄辺野古新基地建設の問題を見ても、翁長知事は地方自治と民主主義を踏みにじろうとする安倍政権と対等に戦っています。地方自治体は国の下請けではなく、福岡市長も函館市長や沖縄県知事を見ならって、福岡市民の生命と財産を守るために、九電および国に玄海原発廃炉を求めるべきだと考えます。

未来の市民に快適な福岡市を残すために 福岡市はユニバーサル都市と言えるのか？ 「成長管理」が必要

先日、ユニバーサルデザイン総合研究所所長の赤池学氏の話聞く機会を得ました。ユニバーサルデザインは「みんな」が使えるということですが、「みんな」とは直接的な利害関係者だけでなく、そこに連なる直接見えない人たち、さらに時間を越えた将来世代も含まれます。これは今の世代だけでなく将来の世代にも思いを馳せることであり、広げて脱原発社会、戦争がない社会も見えてきます。

しかし、高島市長が進める「ユニバーサル都市福岡」を見ると、本当に「ユニバーサル」な福岡市に向かっていると言えるでしょうか。福岡市はバリアフリーのまちづくりを進めていますが、バリアフリーだけではユニバーサルな都市とは言えず、将来の世代によりよい都市環境と健全な市政を引き継ぐ都市でなければなりません。

今の福岡市は、人口増を成長の指標とし、多発するマンション問題に見られるように乱開発が続いています。利便性の高い中心部からアクセスの悪い人工島に移転させたこども病院についても、「こども

のいのち」よりも「人工島の救済」を優先させた施策だと言えます。天神ビッグバンと称して中心部の開発を重点にし、都市景観や交通問題、住環境の問題や過大規模校の問題など、均衡あるまちづくりには目を向けていないのが実態です。ユニバーサルな都市に向かうためには「都市の成長管理」が必要です。

そもそも「自然・環境」の中に私たち人間の存在と経済活動が成り立っているものであり、これを基本的な認識として持つべきです。生物多様性を謳いながら、和白干潟を保護するラムサール条約登録湿地にするつもりがないことも、開発優先の市の姿勢が表れています。生態系を基にした近自然工法のまちづくり、自然に沿った暮らし方と自然資本の活用が未来を作ります。災害についてもハード整備だけでなく、災害後の復旧に柔軟に対応できる思想が必要です。私たちの自然との向き合い方が問われているとともに、福岡市の都市政策の速やかな変更が求められています。

- ◆野党4党(民進・共産・社民・生活)の共闘を支持しています。市民の暮らしを最優先に、格差社会の是正を!
- ◆自民党の改憲草案は、現憲法の3本柱「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」を破壊する内容です。安倍政権による改憲にNOの声を!

皆さまの声が届く議会づくりを目指しています。

- ・ぜひ、市政に関するご意見や、日頃の生活の中でお気づきのことなどお聞かせください。
- ・2015年の議会報告書(無料)を希望される方は、ご連絡ください。

あらかき事務所 ☎092-862-8980

「あらかき龍昇」公式ウェブサイト
<http://www.araki-jp.com/>

